

C-61 大腿部の肥大とストレートスカート

東横学園女短大 有馬澄子 山中美千代 ○田辺光子

目的 本学でのスカート原型(ストレートスカート)製作にあたって、ここ5~6年前から目立ってきた現象として、腰圍寸法を基準として4cmのゆとり量を加えて製作したストレートスカートでは、ゆとり量が不足し、大腿部がつかえ、着用不可能な学生が多くなってきた。すなわち大腿部の発達肥大が著しく、大腿部周辺で標準のゆとり量4cmを上まわる張りがあるのではないかと推測された。そこで、大腿部肥大の状態を把握し、大腿部肥大の者に適合するストレートスカートの作成を目的に本研究に着手した。

方法 まず大腿部の発達状態を測定するために、大腿部の太さや張りも含む下半身部最大周囲を測定する器具を本学園村講師が考案。これを用い、青年女子約560名を被検者として、下半身部最大周と、スカート製作に関連のある部位を計測。ひきつづきストレートスカートの製作、試着、補正を行い、適合の可否を検討。更に大腿部の発達著しい者の中から体型の異なる者を着用被検者として選び、製作基準寸法、ゆとり量を変えたストレートスカートを試作、試着、検討を試みた。

結果 1974年~1976年にかけて、大腿部は漸次肥大し、「下半身部最大周-腰圍」の値は、ストレートスカートの標準的ゆとり量4cmを超えてきている。大腿部肥大の者に、腰圍基準(H+4cm)のストレートスカートは適合しない。大腿部肥大の者に、下半身部最大周を基準とした(最大周+4cm)ストレートスカートも適合するとは限らない。大腿部肥大の者のストレートスカートのゆとり量は、画一的な数値では適合に無理があり、最大周と腰圍の差、下半身部形態のちがいに影響される。